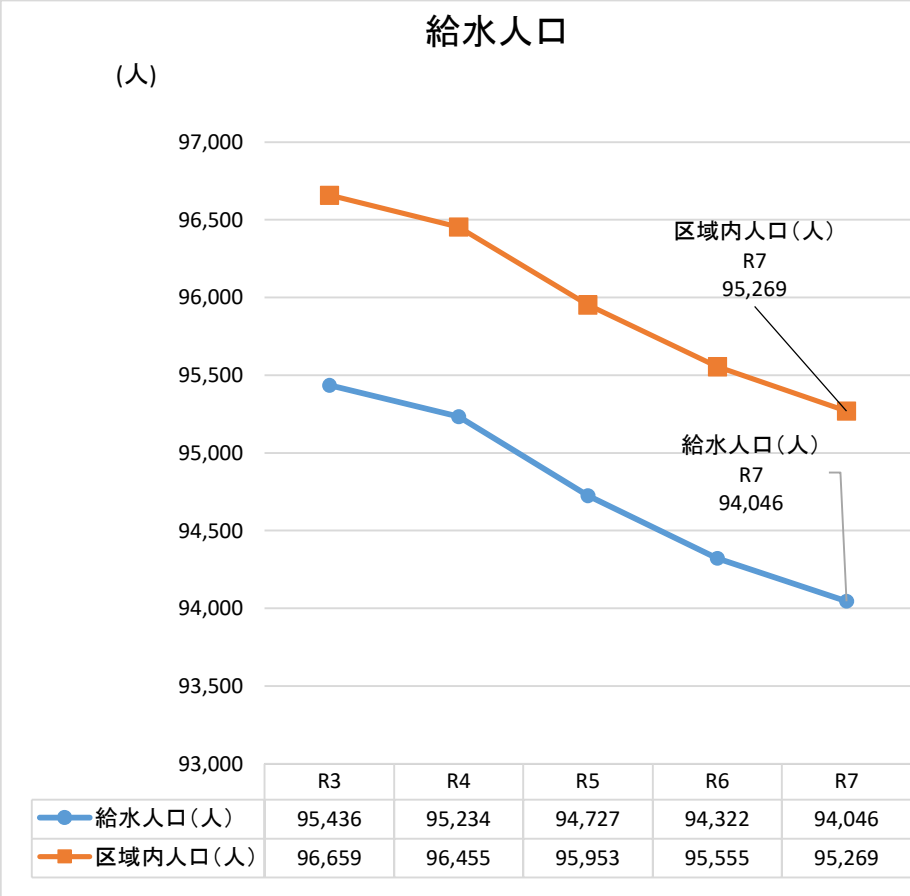
資料

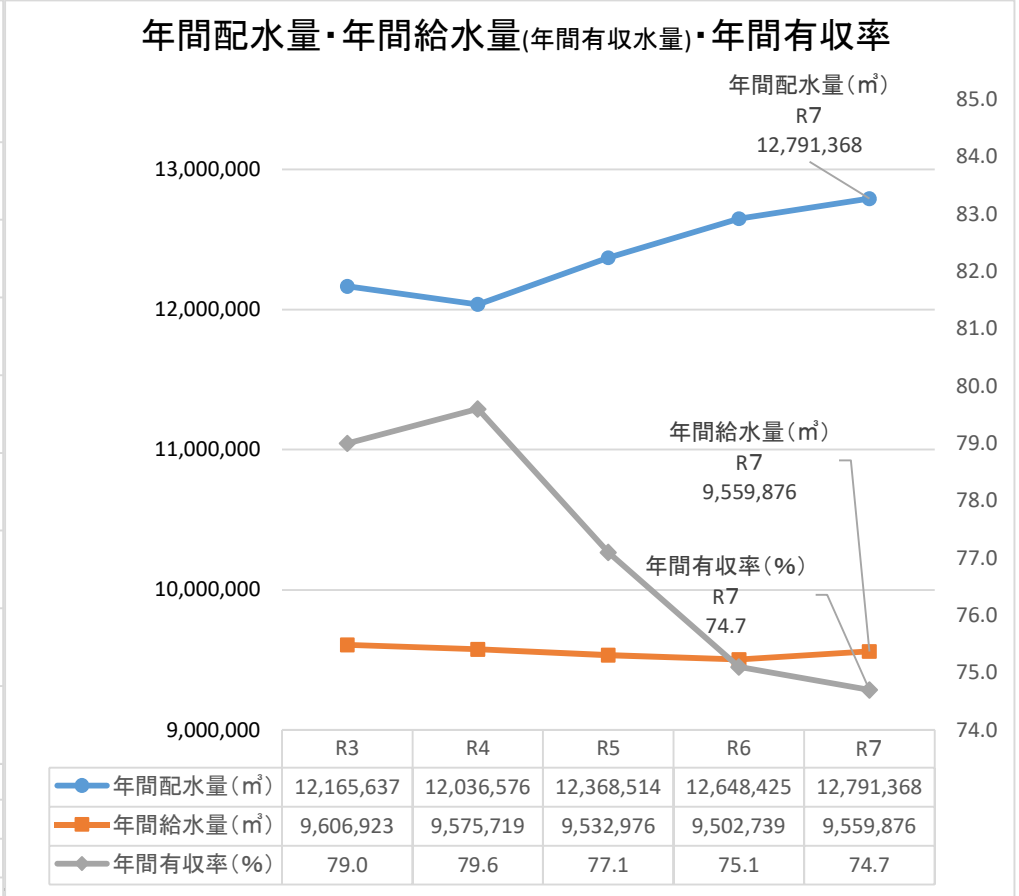
令和７年度　安曇野市上下水道事業　決算概要

Ⅰ　水道事業決算概要

１　業務量　（決算書　29ページ）



	R3	R4	R5	R6	R7
給水人口（人）	95,436	95,234	94,727	94,322	94,046
区域内人口（人）	96,659	96,455	95,953	95,555	95,269



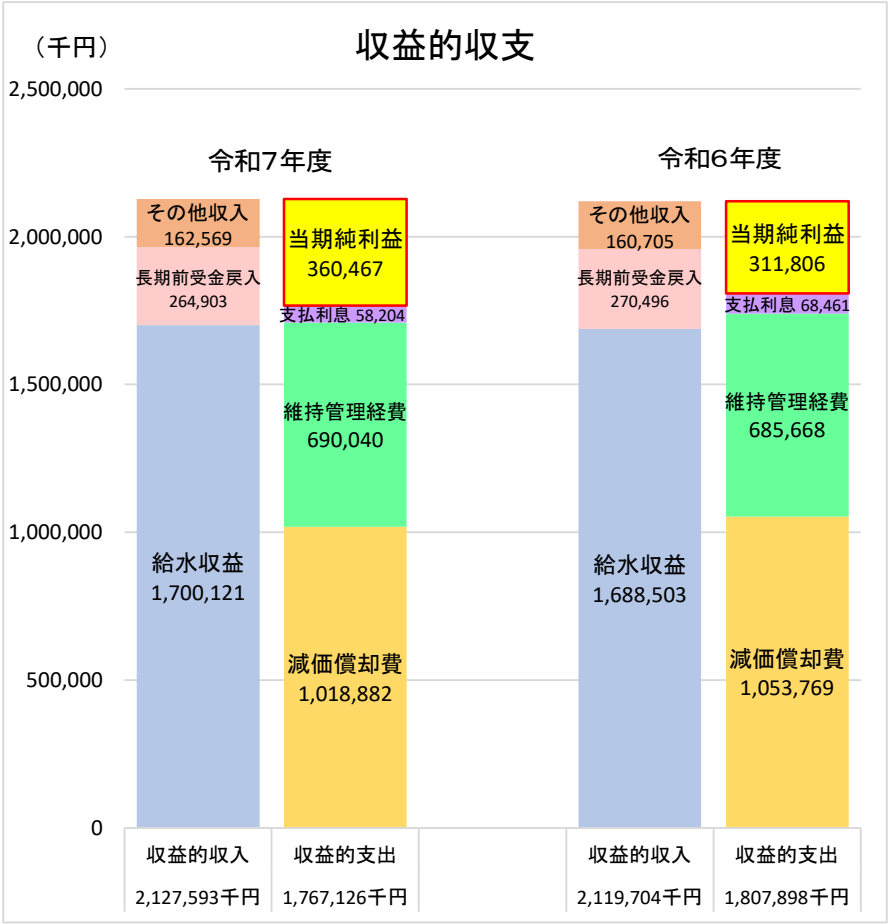
	R3	R4	R5	R6	R7
年間配水量（㎥）	12,165,637	12,036,576	12,368,514	12,648,425	12,791,368
年間給水量（㎥）	9,606,923	9,575,719	9,532,976	9,502,739	9,559,876
年間有収率（%）	79.0	79.6	77.1	75.1	74.7

２　収益的収支（損益計算書）　（決算書　９～10ページ、29ページ、32～35ページ）

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。
水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表しています。

（千円）※消費税抜き

収益的収支	令和７年度	令和６年度	増減	増減率
営業収益	1,799,158	1,786,910	12,248	0.69%
うち給水収益	1,700,121	1,688,503	11,618	0.69%
営業外収益	328,435	332,794	△ 4,359	△ 1.31%
うち長期前受金戻入	264,903	270,496	△ 5,593	△ 2.07%
収益　計　①	2,127,593	2,119,704	7,889	0.37%
営業費用	1,706,366	1,737,147	△ 30,781	△ 1.77%
うち減価償却費	1,018,882	1,053,769	△ 34,887	△ 3.31%
うち資産減耗費	17,482	33,127	△ 15,645	△ 47.23%
営業外費用	60,760	70,751	△ 9,991	△ 14.12%
費用　計　②	1,767,126	1,807,898	△ 40,772	△ 2.26%
経常損益　①-②	360,467	311,806	48,661	15.61%
特別損益	0	0	0	－
純　損　益	360,467	311,806	48,661	15.61%



損益では、総収益が21億2,759万3千円で、総費用は17億6,712万6千円となり、純損益は3億6,046万7千円の黒字で、前年度に比べ4,866万1千円の増加となりました。

収益は、前年度と比較して収益全体では788万9千円増加となりました。給水収益の増加が主な原因と考えられます。

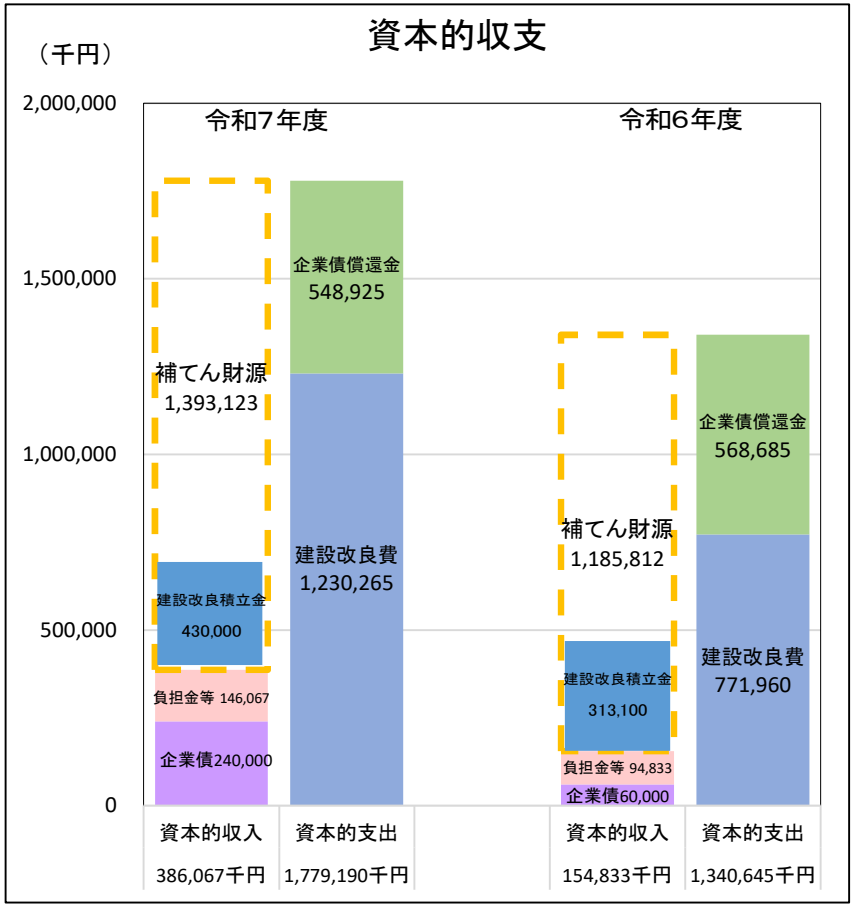
費用は、減価償却費や資産減耗費が減少したことを主な原因として、4,077万2千円減少しました。

３　資本的収支　（決算書　７～８ページ）

水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

（千円）※消費税込み

資本的収支		令和７年度	令和６年度	増減	増減率
資本的収入（a）		386,067	154,833	231,234	149.34%
	うち企業債	240,000	60,000	180,000	－
資本的支出（b）		1,779,190	1,340,645	438,545	32.71%
	うち企業債償還金	548,925	568,685	△ 19,760	△ 3.47%
資本的収支不足額（a）－（b）		△ 1,393,123	△ 1,185,812	△ 207,311	17.48%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	98,619	66,065		
	損益勘定留保資金（※1）	864,504	806,647		
	建設改良積立金	430,000	313,100		



資本的収入は3億8,606万7千円で、前年度より2億3,123万4千円増加しました。
これは、企業債の借入額の増加によるものです。
資本的支出は17億7,919万円で、前年度から繰り越した上原水源地監視装置更新工事等の施工により前年度より4億3,854万5千円増加しました。収支差引で不足する13億9,312万3千円は、損益勘定留保資金8億6,450万4千円、建設改良積立金4億3,000万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1)損益勘定留保資金
施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金

4　貸借対照表　（決算書　13～14ページ）

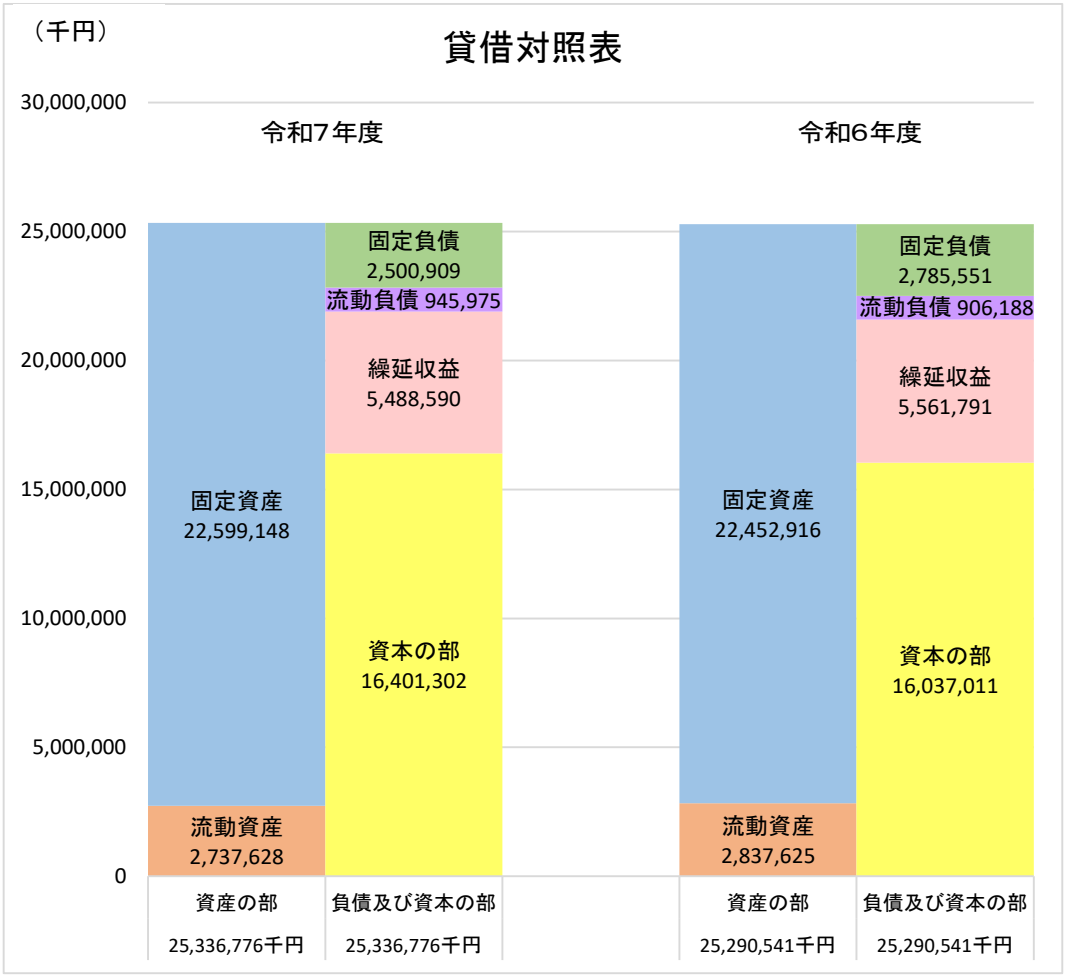
財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

（千円）

		令和７年度	令和６年度	増減
資産		25,336,776	25,290,541	46,235
	固定資産	22,599,148	22,452,916	146,232
	流動資産	2,737,628	2,837,625	△ 99,997
	うち現金	2,271,614	2,601,561	△ 329,947
負債		8,935,474	9,253,530	△ 318,056
	固定負債	2,500,909	2,785,551	△ 284,642
	うち企業債	2,500,909	2,785,551	△ 284,642
	流動負債	945,975	906,188	39,787
	うち企業債	524,642	548,924	△ 24,282
	繰延収益	5,488,590	5,561,791	△ 73,201
資本		16,401,302	16,037,011	364,291
	資本金	13,940,596	13,627,496	313,100
	剰余金	2,460,706	2,409,515	51,191
	資本剰余金	234,988	231,165	3,823
	利益剰余金	2,225,718	2,178,350	47,368
負債＋資本　計		25,336,776	25,290,541	46,235

令和７年度は企業債を2億4,000万円借入れましたが、企業債償還等により負債は3億1,805万6千円減少しました。

また、前年度決算で取り崩した建設改良積立金の組入れにより資本金は3億1,310万円増加しました。



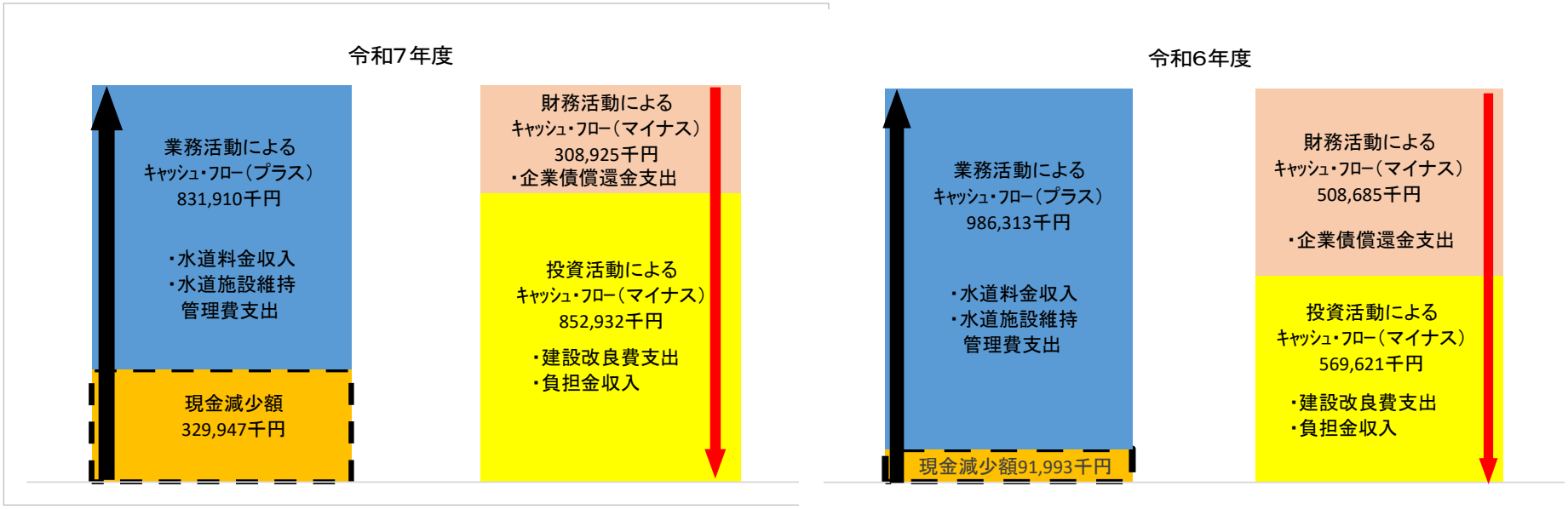
５　キャッシュ・フロー計算書　（決算書　31ページ）

１年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の３種類に区分けして、現金の流れを表します。
業務活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。ﾌﾟﾗｽになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。
投資活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はﾏｲﾅｽとなります。
財務活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はﾏｲﾅｽ、借入れた場合はﾌﾟﾗｽとなります。

（千円）

	令和７年度	令和６年度	増減
業務活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	831,910	986,313	△ 154,403
投資活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	△ 852,932	△ 569,621	△ 283,311
財務活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	△ 308,925	△ 508,685	199,760
現金増減額	△ 329,947	△ 91,993	△ 237,954
現金期首残高	2,601,561	2,693,554	△ 91,993
現金期末残高	2,271,614	2,601,561	△ 329,947

業務活動による現金収支は、8億3,191万円でプラス領域のため事業活動は順調と言えます。投資活動による現金収支は、8億5,293万2千円のマイナスで配水管布設替工事等の建設改良費を主に支出しました。財務活動による現金収支は、3億2,994万7千円のマイナスで企業債償還金を支出しました。現金の期末残高は22億7,161万4千円となりました。

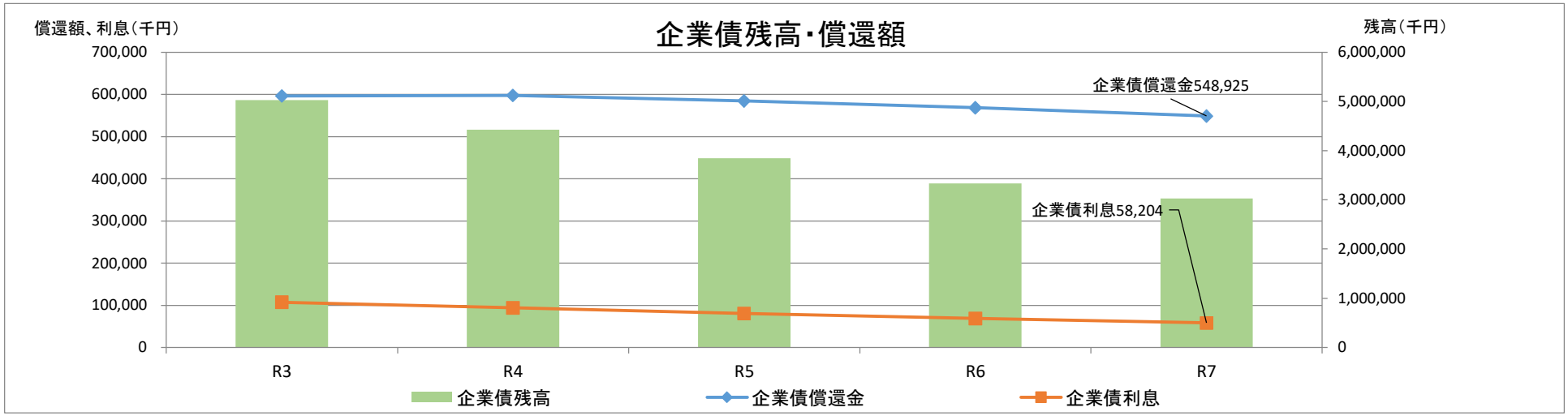


６　企業債　（決算書　７～８ページ、10ページ、14ページ、30ページ、35ページ、37～38ページ）

（千円）

年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
年度末残高	5,025,227	4,427,674	3,843,160	3,334,475	3,025,551
借入額	83,000	0	0	60,000	240,000

2億4,000万円の借入れと5億4,892万5千円の元金償還により、令和７年度末の企業債残高は30億2,555万1千円となりました。
また、企業債利息として、5,820万4千円を支払いました。



７　利益剰余金　（決算書　11～12ページ）

（千円）

前年度からの繰越利益剰余金　A		5
当年度変動額　B		790,467
	当年度純利益	360,467
	積立金の取り崩し	430,000
当年度未処分利益剰余金　(C=A+B)		790,472

当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越額5千円と当年度純利益3億6,046万7千円、資本的収支の不足額を補てんするために建設改良積立金を取り崩した4億3,000万円の合計7億9,047万2千円となりました。

利益剰余金処分（案）　（千円）

建設改良積立金の積立	△　360,470
資本金への組入れ	△　430,000
処分額　計　D	△　790,470

（千円）

翌年度への繰越利益剰余金(E=C-D)	2

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。
当年度の利益は、後年度の更新事業の財源に充てるため、建設改良積立金へ積立てます。

令和7年度に上水道事業で実施した主な取組みについて

①主要管路布設事業

≪配水管布設工事≫
災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路整備を行い、令和7年度は3ヶ年計画にて岩原低区配水池の場内整備工事に着手しました。また、岩原低区配水池への導水管と同配水池から重要給水施設への配水管の耐震化を進めることができました。

管布設状況





●主要管路整備事業　L=405m　　C=74,261千円（堀金）

②既存管路更新事業

≪送配水管布設替工事≫
老朽化した配水管等を地震に強い管種に更新し、漏水の減少及び耐震化を進めています。

管布設状況





●既存管路更新事業　L=4,443m　　C=581,856千円

③非常用発電機設置事業

≪上原水源地非常用発電機室建設≫
災害による停電事故は多くの施設にも及ぶことになり、大規模な断・減水を招く恐れがあります。特に拠点配水池では災害時や停電時にも水道の供給を続ける必要があり、上原水源地に非常用発電機を設置する工事を令和7・8年度で行っています。

発電機建屋



発電機建屋内部

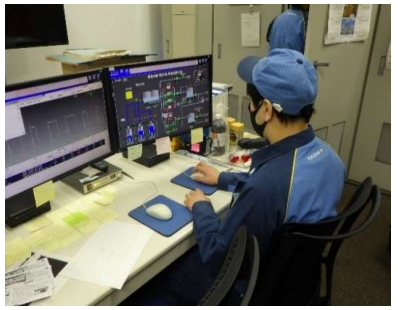


●発電機設置工事（上原配水池）　C=108,680千円

④既存施設更新事業

≪既存施設更新事業≫
施設の安定した運転管理のため、耐用年数が経過した監視制御システム端末機器を更新し、安全安心な施設運営を図りました。
・上原水源地CS3000・LCD監視装置の更新ほか。

中央監視装置更新



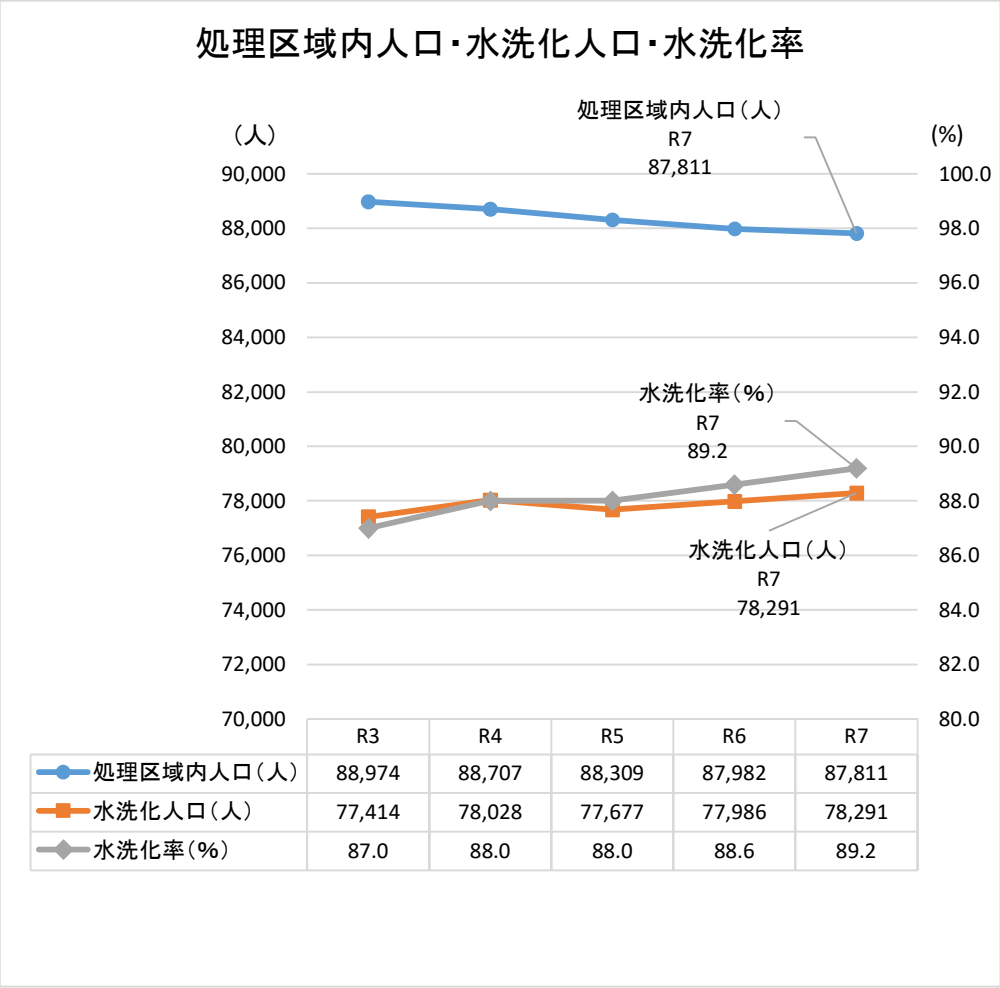
確認検査



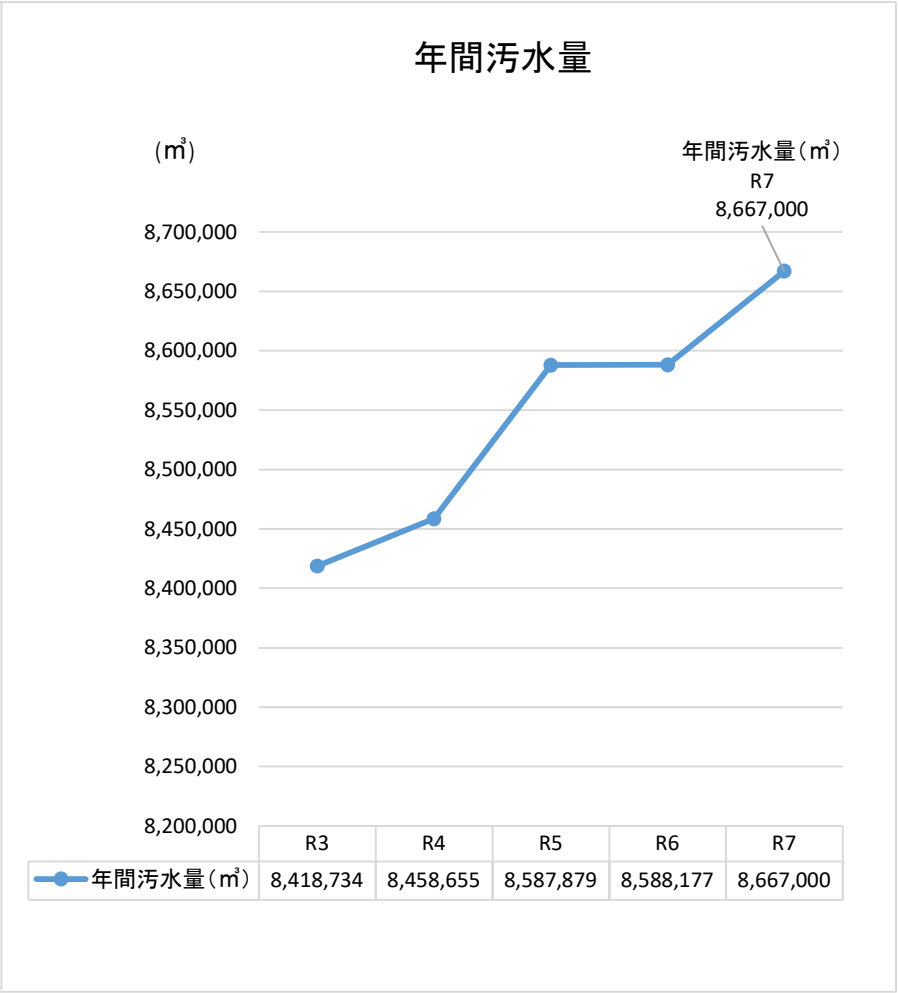
●設備更新工事　C=173,624千円

Ⅱ　下水道事業決算概要

1　業務量　（決算書　56ページ）



	R3	R4	R5	R6	R7
処理区域内人口（人）	88,974	88,707	88,309	87,982	87,811
水洗化人口（人）	77,414	78,028	77,677	77,986	78,291
水洗化率（%）	87.0	88.0	88.0	88.6	89.2



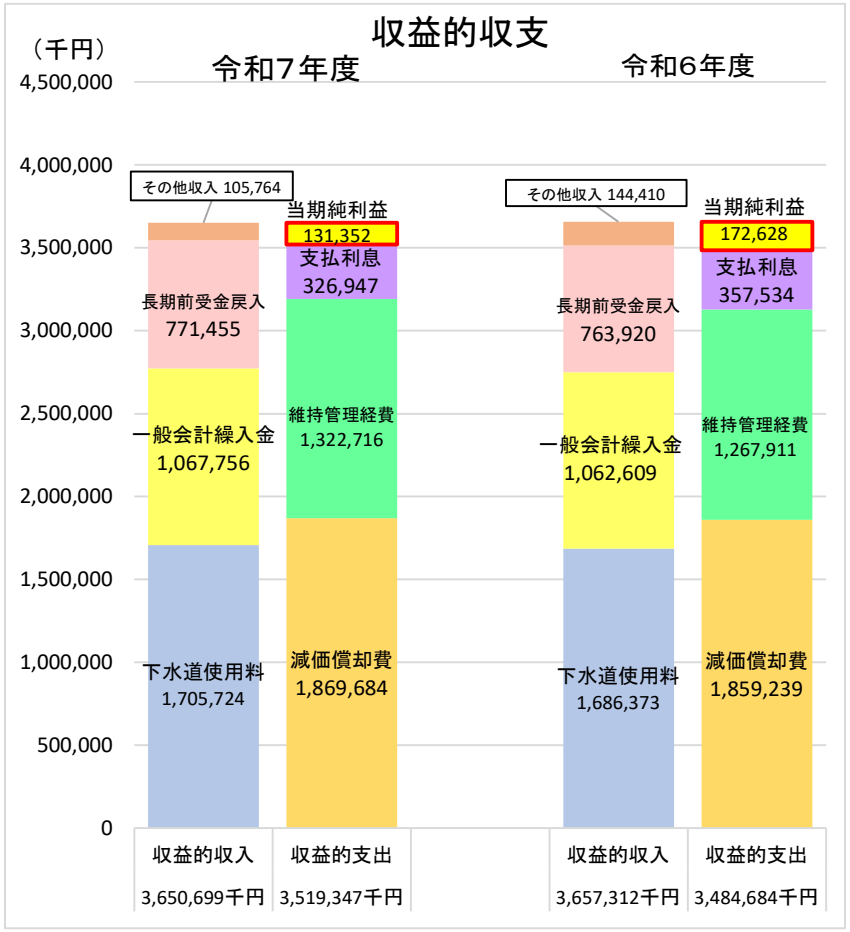
	R3	R4	R5	R6	R7
年間汚水量（㎥）	8,418,734	8,458,655	8,587,879	8,588,177	8,667,000

２　収益的収支（損益計算書）　（決算書　43～44ページ、57ページ、60～63ページ）

使われた水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。
下水道がどのくらい使用され、その汚水を処理するまでにどのくらい費用がかかっているのかを表しています。

（千円）※消費税抜き

収益的収支	令和７年度	令和６年度	増減	増減率
営業収益	1,746,745	1,730,419	16,326	0.94%
うち下水道使用料	1,705,724	1,686,373	19,351	1.15%
営業外収益	1,903,954	1,926,893	△ 22,939	△ 1.19%
うち一般会計繰入金	1,067,756	1,062,609	5,147	0.48%
収益　計　①	3,650,699	3,657,312	△ 6,613	△ 0.18%
営業費用	3,184,817	3,125,004	59,813	1.91%
うち減価償却費	1,869,684	1,859,239	10,445	0.56%
営業外費用	334,530	359,680	△ 25,150	△ 6.99%
費用　計　②	3,519,347	3,484,684	34,663	0.99%
経常損益　①-②	131,352	172,628	△ 41,276	△ 23.91%
特別損益	0	0	0	－
純　損　益	131,352	172,628	△ 41,276	△ 23.91%



損益では、総収益が36億5,069万9千円で、総費用は35億1,934万7千円となり、純損益は1億3,135万2千円の黒字で、前年度に比べ4,127万6千円減少となりました。
収益は、国庫補助金や流域下水維持管理負担金返還金の減少により661万3千円減少しました。
費用は、企業債の利息が3,058万7千円減少しましたが、事業計画変更に係る委託料の増加などにより合計して3,466万3千円増加しました。

3　資本的収支　（決算書　41～42ページ）

下水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

（千円）※消費税込み

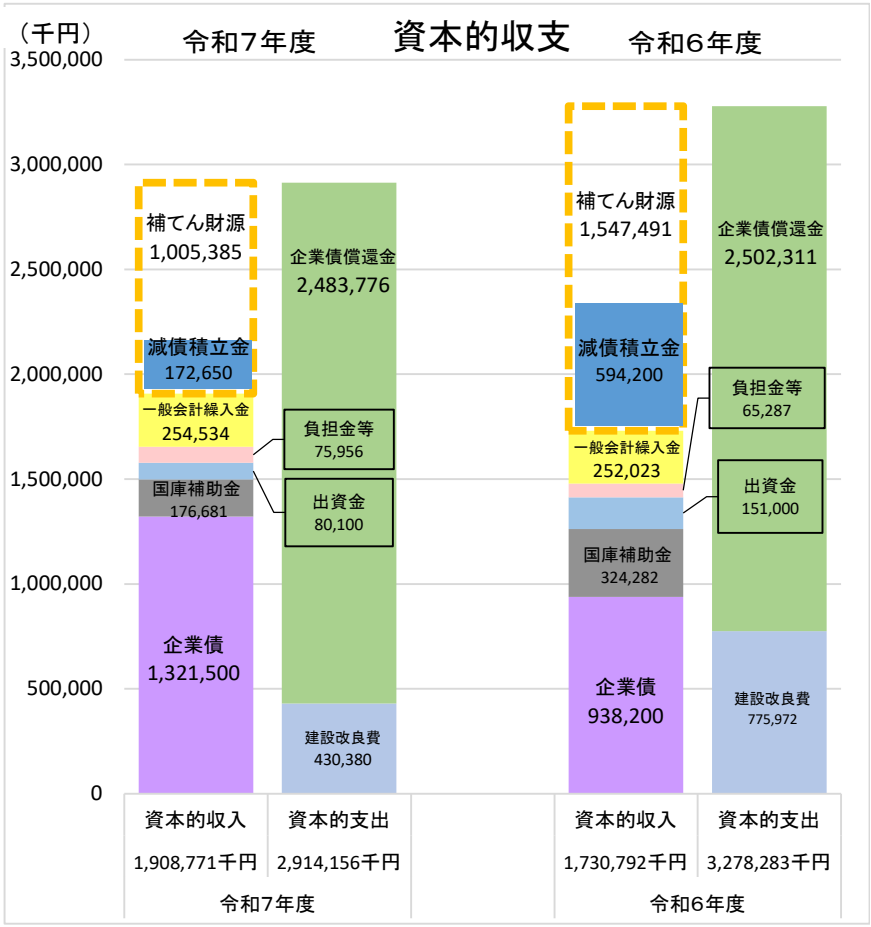
資本的収支		令和７年度	令和６年度	増減	増減率
資本的収入（a）		1,908,771	1,730,792	177,979	10.28%
	うち資本費平準化債	1,160,700	655,000	505,700	77.21%
資本的支出（b）		2,914,156	3,278,283	△ 364,127	△ 11.11%
	うち企業債償還金	2,483,776	2,502,311	△ 18,535	-0.74%
資本的収支不足額（a）－（b）		△ 1,005,385	△ 1,547,491	542,106	△ 35.03%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	6,496	19,358		
	損益勘定留保資金（※1）	826,239	933,933		
	減債積立金	172,650	594,200		

資本的収入は19億877万1千円で、企業債の借入額の増加により、1億7,797万9千円増加しました。

資本的支出は29億1,415万6千円で、下水道施設統廃合事業などを繰り越した影響により、3億6,412万7千円減少しました。

収支差引で不足する10億538万5千円は、損益勘定留保資金8億2,623万9千円と減債積立金1億7,265万円の取り崩しなどで補てんしました。

（※1）損益勘定留保資金
施設の減価償却費などの現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



（参考）一般会計繰入金収入額の比較　（決算書　43ページ、50ページ、58ページ、60ページ）

（一般会計負担金）　（千円）

	令和７年度	令和６年度	増減
一般会計繰入金合計	1,324,587	1,316,864	7,723
収益的収入	1,070,053	1,064,841	5,212
資本的収入	254,534	252,023	2,511

※収益的収入グラフとの差額は生保減免分繰入金（営業収益）分です。
（令和７年度　2,297千円、令和６年度　2,232千円）

（千円）

基準内で繰入るもの	1,320,921
基準外で繰入るもの	1,369
生保減免分繰入金	2,297
上記合計	1,324,587

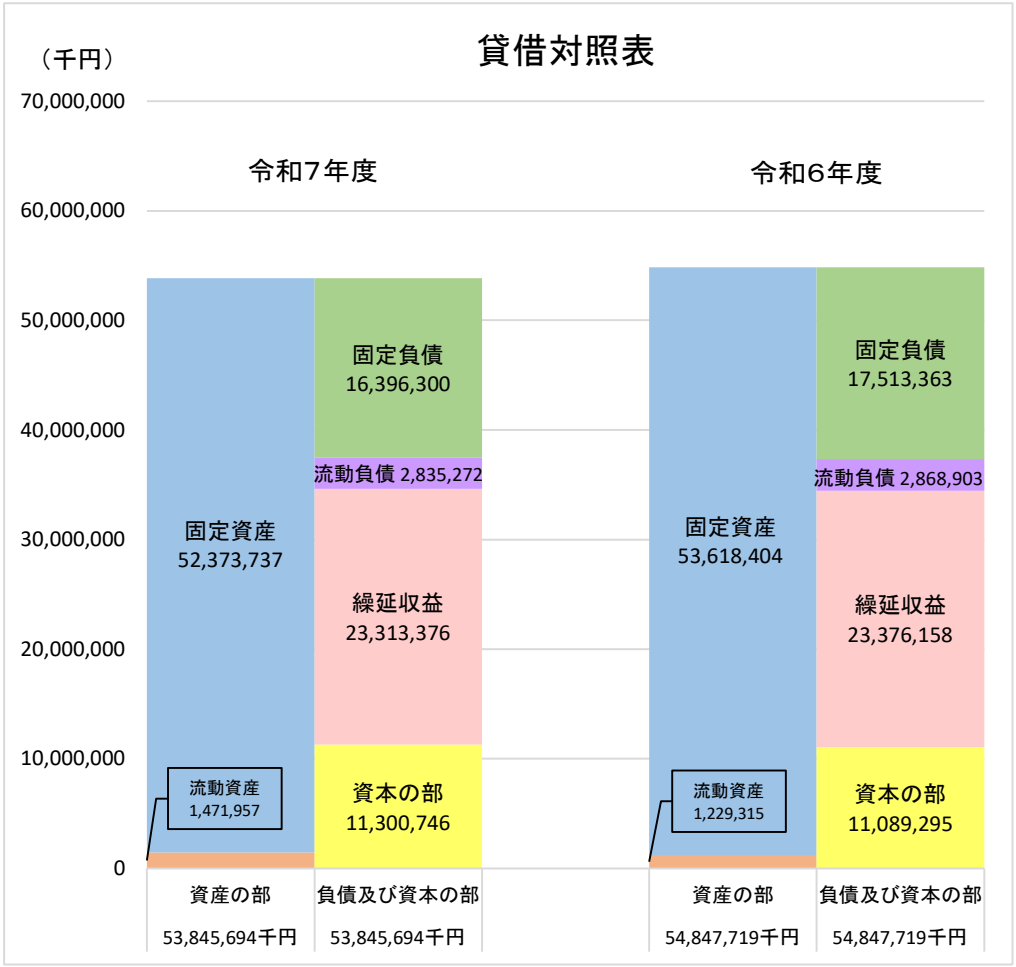
４　貸借対照表　（決算書　47～48ページ）

財政状態を表し、保有している財産や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

（千円）

		令和７年度	令和６年度	増減
資産		53,845,694	54,847,719	△ 1,002,025
	固定資産	52,373,737	53,618,404	△ 1,244,667
	流動資産	1,471,957	1,229,315	242,642
	うち現金	1,070,259	652,282	417,977
負債		42,544,948	43,758,424	△ 1,213,476
	固定負債	16,396,300	17,513,363	△ 1,117,063
	うち企業債	16,396,300	17,513,363	△ 1,117,063
	流動負債	2,835,272	2,868,903	△ 33,631
	うち企業債	2,438,563	2,483,776	△ 45,213
	繰延収益	23,313,376	23,376,158	△ 62,782
資本		11,300,746	11,089,295	211,451
	資本金	10,599,273	9,924,973	674,300
	剰余金	701,473	1,164,322	△ 462,849
	資本剰余金	397,447	397,447	0
	利益剰余金	304,026	766,875	△ 462,849
負債＋資本　計		53,845,694	54,847,719	△ 1,002,025

企業債残高が188億3,486万3千円で、負債合計の約44％を占めています。また、前年度決算で取り崩した減債積立金及び出資金の組入れ等により資本金は6億7,430万円増加しました。令和６年度において、他会計負担金収入の減少に伴い減債積立金への積立額が減少したことから、令和７年度の積立金取崩額もこれに伴い減少し、その結果、利益剰余金は4億6,284万9千円減少しました。



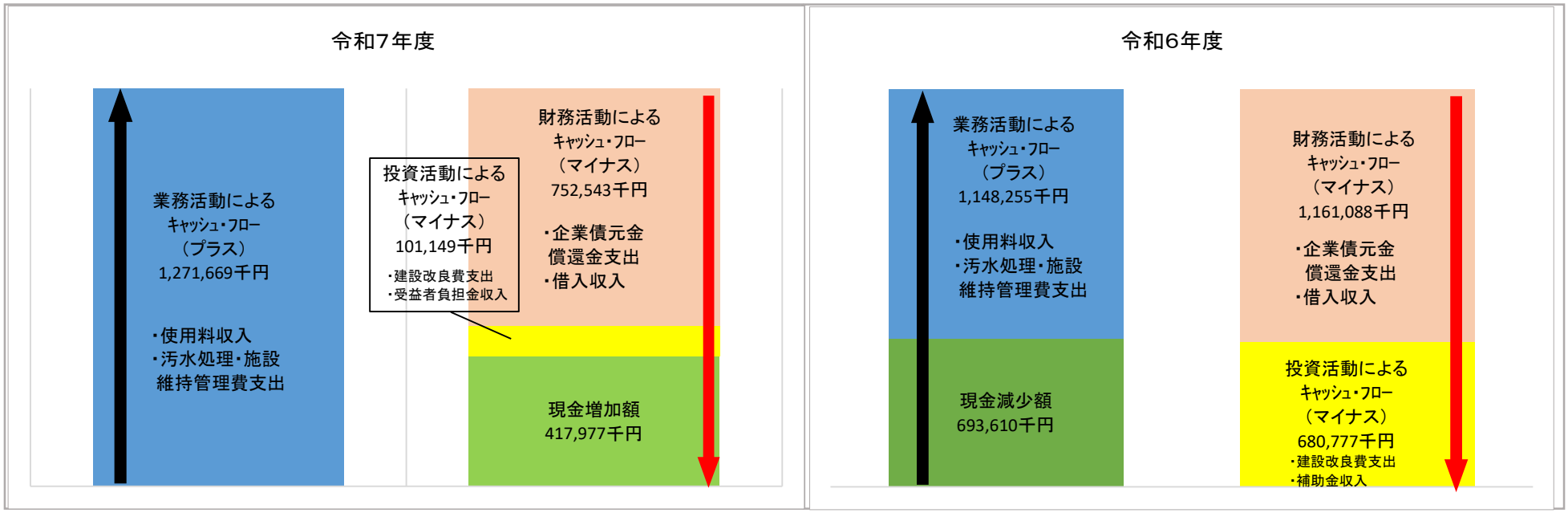
５　キャッシュ・フロー計算書　（決算書　59ページ）

１年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の３種類に区分けして、現金の流れを表します。
業務活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。ﾌﾟﾗｽになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。
投資活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はﾏｲﾅｽとなります。
財務活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はﾏｲﾅｽ、借入れた場合はﾌﾟﾗｽとなります。

（千円）

	令和７年度	令和６年度	増減
業務活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	1,271,669	1,148,255	123,414
投資活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	△ 101,149	△ 680,777	579,628
財務活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	△ 752,543	△ 1,161,088	408,545
現金増減額	417,977	△ 693,610	1,111,587
現金期首残高	652,282	1,345,892	△ 693,610
現金期末残高	1,070,259	652,282	417,977

業務活動による現金収支は、12億7,166万9千円のプラスで、順調な経営状況と言えます。
投資活動による現金収支は、下水道統廃合事業などの建設改良費の支出などにより、1億114万9千円のマイナスとなりました。財務活動による現金収支は、企業債の償還などにより7億5,254万3千円のマイナスとなりました。現金の期末残高は、10億7,025万9千円で、4億1,797万円7千円の増となりました。

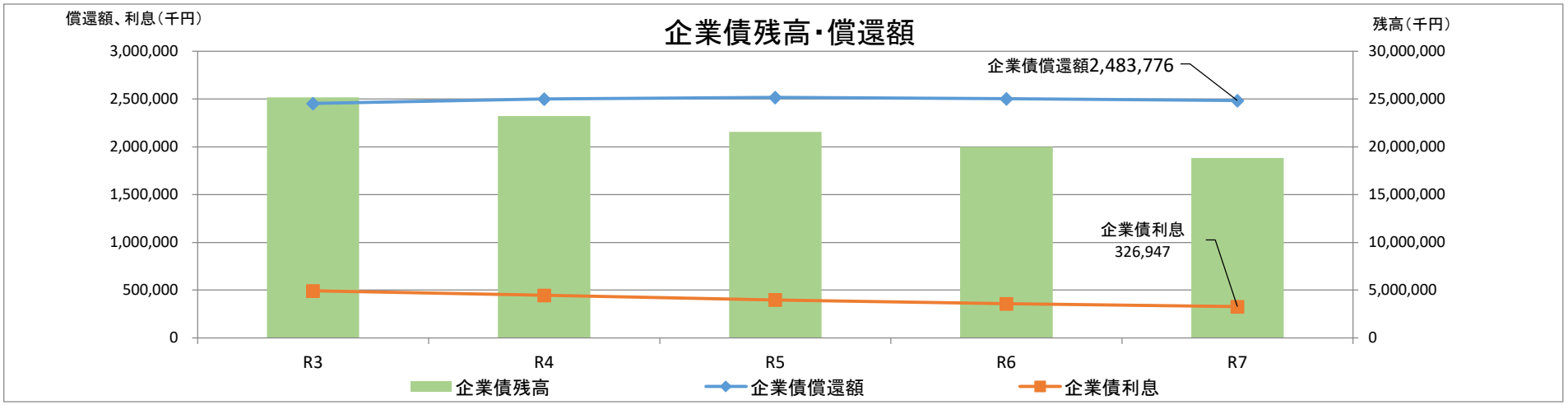


６　企業債　（決算書　41～42ページ、44ページ、48ページ、58ページ、63ページ、65～71ページ）

（千円）

年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和7年度
年度末残高	25,195,705	23,220,038	21,561,250	19,997,139	18,834,863
借入額	498,800	525,800	857,800	938,200	1,321,500
うち資本費平準化債	400,000	491,000	684,000	655,000	1,160,700

令和７年度は、下水道事業債1億6,080万円と資本費平準化債11億6,070万円を借り入れました。
一方で、24億8,377万6千円の元金償還により、年度末の企業債残高は188億3,486万3千円となりました。
また、企業債利息として3億2,694万7千円を支払いました。



７　利益剰余金　（決算書　45～46ページ）

（千円）

前年度からの繰越利益剰余金　A		24
当年度変動額　B		304,002
	当年度純利益	131,352
	積立金の取り崩し	172,650
当年度未処分利益剰余金(C=A+B)		304,026

当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越額2万4千円と当年度純利益1億3,135万2千円、資本的収支の不足額を補てんするために減債積立金を取り崩した1億7,265万円の合計3億402万6千円となりました。

利益剰余金処分（案）　（千円）

減債積立金の積立	△ 131,350
資本金への組入れ	△ 172,650
処分額　計　D	△ 304,000

（千円）

翌年度への繰越利益剰余金(E=C-D)	26

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。
当年度の利益は、企業債償還の財源に充てるため、減債積立金へ積立てます。

令和7年度に下水道事業で実施した主な取組みについて

豊かな自然環境を守る（下水道の効率的な整備）

≪ 汚水処理の広域化・共同化の推進 ≫

下水道サービスを継続的かつ安定的に提供するため、「汚水処理区域の広域化」、「汚水処理施設の共同化」を推進し、効率的かつ効果的な事業運営に向けて取り組んでいます。

令和7年度は以下の工事等を行いました。

●工事

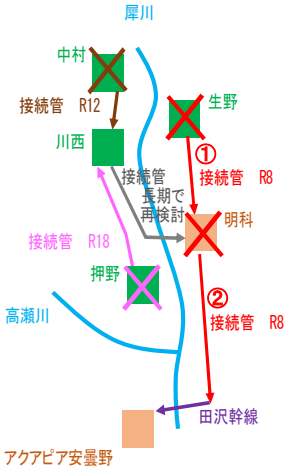
①接続管　L=94.3m、マンホールポンプ場　1機場

②接続管　L=335.0m、マンホールポンプ場　2機場

道路占用路面復旧　L=692.4m

●委託業務　①、②工事の施工監理業務

●補償費　接続管工事に伴う上水道補償



●工事請負費　C＝289，696千円　　●補償費　C＝19，718千円

●委託料　C＝11，289千円

健全で持続可能な事業運営（広聴・広報手段の拡充）

≪ マンホールカード ≫

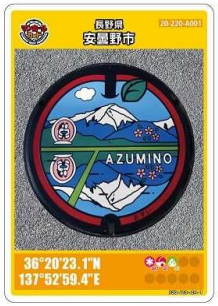
マンホールカードは、下水道への関心を高めてもらうことを目的に作られたコレクションカードです。

このカードは、全国各地のマンホールを巡りながら、楽しく、また、下水道の大切さや地域の魅力を知ってもらうために作られました。

≪ 『みずかがみ（水鏡）』 ≫

このマンホール蓋は、「澄んだ水」、「広がる田園風景」、「雄大な常念岳」を題材としたデザインです。

そんな自然と文化が「ギュッ」と詰まったカードを、平日は下水道課窓口、休祝日は庁舎管理室にて無料配布しています。





●印刷製本費　C=99千円

安全で安心な暮らしの実現（計画的な維持管理）

≪ 下水道施設維持管理 ≫

処理場5施設及びマンホールポンプ場162箇所、管きょ856kmの適切な運転管理と施設の維持に取り組み水環境の保全に努めました。



管路自走式カメラ調査
L=1，549m実施



管口カメラ調査　巡視点検
190箇所実施　L=70,128m実施

災害時長期停電を想定し発電設備を使用した施設稼働訓練状況　**実施日：令和8年2月25日**



非常用発電機運転確認



配線接続作業



ポンプ設置作業

脱水ケーキ搬出状況



施設維持管理作業状況





汚泥処分量1,283t　脱水ケーキ処分量316t

●維持管理費　C＝213，040千円

委託料：182，628千円　　汚泥処分費：18，001千円　　修繕費：12,411千円